

社会実験「まちリバ横丁」 実績について

まちなかりバースプロジェクト
庁内検討チーム

社会実験「まちリバ横丁」 目的と内容

社会実験の目的：①ナイトタイムエコノミーの掘り起こし
②模擬横丁イベントを通じたエリアの賑わい創出
③20代～40代のまちに対するニーズの把握

実施箇所：東町市有地

実施期間：3月15日（土）午後5時～午後10時
※3月16日は雨天のため中止

内 容：●飲食を販売するブースやテント、ストーブ等を設置することで、暖を取りながら飲食・交流が図れる環境を設置。
●提灯やこじんまりとしたレイアウトで飲み屋横丁の雰囲気を演出。
●観光協会が主催する「夜市（二宮神社を拠点とするイベント）」と同日に開催。

効果測定：来場者数の測定及び利用者へのアンケート調査

周知方法：チラシの新聞折込、市ホームページ、広報誌、LINE

当日の様子①

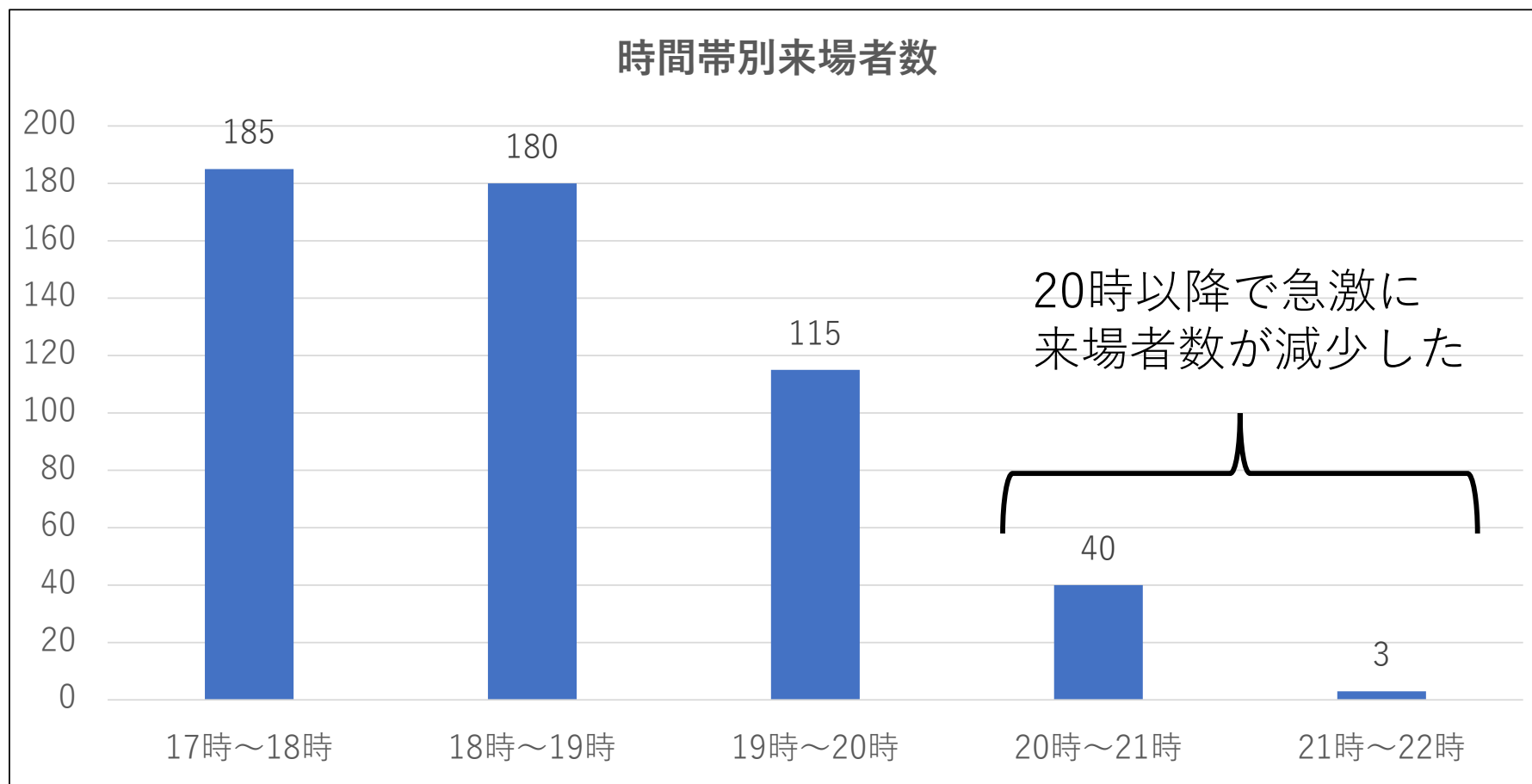


当日の様子②



来場者数の実績

来場者数 **合計523人**（入口において職員が目視確認）



アンケート結果（回答件数：64件）

（１）利用者に関する情報

性別	男性	女性					
	40	24					
年代	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
	0	15	14	12	13	9	1
住まい	市内在住	うち今市地域内	市外在住				
	53	45	11				

広い年齢層の利用が確認された

今市地域の市民の方の利用が8割を超えた

（２）まちリバ横丁についての項目

利用人数	1人	2人	3人	4人	5人以上		
	9	23	5	17	10		
誰と利用したか	家族	同僚	友人	恋人			
	30	6	16	3			
満足度	大変よい	よい	どちらとも言えない	悪い	大変悪い		
	37	19	6	0	2		
来場経緯 (複数回答あり)	折込チラシ	下野新聞記事	広報にっこう	日光市LINE	日光市HP	夜市での案内	その他
	22	6	4	5	5	5	33

の利用も多く確認された

利用者の9割弱が好意的な回答（大変よい、よい）であった

通りかかって立ち寄った人が一定数いたと考える

小学生以下の子供を連れた家族の利用も多く確認された

利用者の9割弱が好意的な回答（大変よい、よい）であった

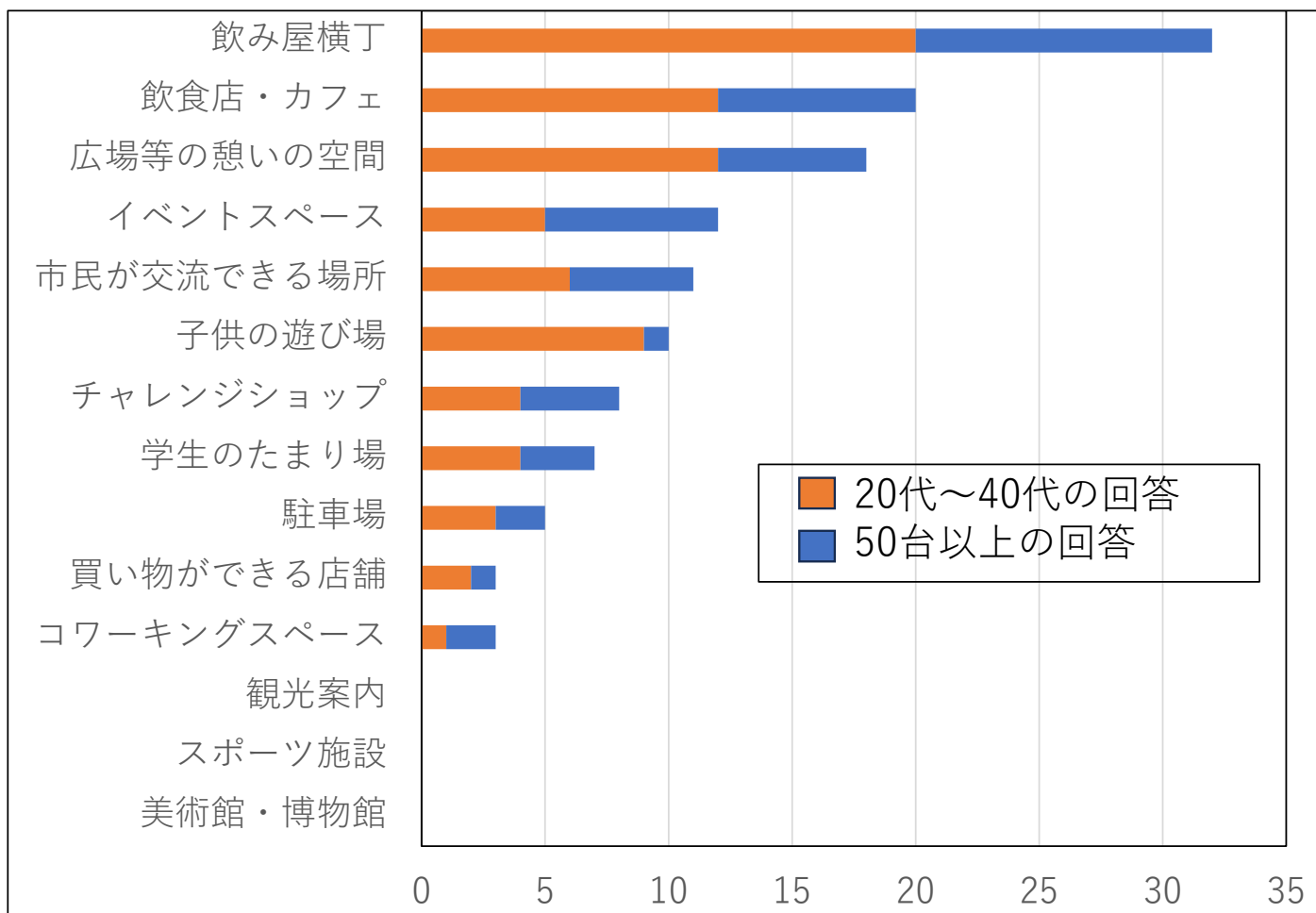
通りかかって立ち寄った人などが一定数いたと考える

中心市街地の世帯に実施した新聞折込による周知が効果的であった

夜市での案内により来場した方も一定数確認できた

アンケート結果（回答件数：64件）

（3）東町市有地の活用方法（複数回答あり）



・『飲み屋横丁』の回答が最も多く、次いで『飲食店・カフェ』、『広場等の憩いの空間』の回答が多かった

・20代～40代の回答において『子供の遊び場』を求める回答も多くみられた

実験結果のまとめ・考察

●来場者数が500人を超え、夜間において賑わいのある空間を創出することができた。また、明るく、人が集まる空間が道路沿いあることで、横丁イベントをやっていることを知らなかった人も立ち寄りたくなる空間になっていたと考える。

●時間帯別の来場者推移が示すように、現在の中心市街地においては21時以降の飲み屋横丁に対する需要は限定的なものであると考える。このため、東町市有地の活用方法に対するアンケートについては、横丁イベント中であったことから「飲み屋横丁」の回答が多くなったが、実態としては「飲食店・カフェ」や「広場などの憩いの空間」としての利用に一定のニーズがあると考ええる。また、20代～40代に限定した場合には、「子供の遊び場」についても一定のニーズを示す結果となった。

●夜市と日程を合わせたことで、想定していなかった客層（小学生以下の子供を連れた家族）の姿も多く見られた。またアンケート回答者の1割程度が夜市での案内により、まちリバ横丁に来場したと回答したことから、タイミングを合わせて複数拠点においてイベント等を実施することで拠点間の回遊とイベント間の相乗効果を生み出せたと考える。